

# 202

演題名 当院の過去5年間のMRSAの検出率とPOT番号の推移について  
サブタイトル

所属 近江八幡市立総合医療センター 臨床検査科  
氏名 近澤 秀己, 谷田 仁司, 桐畑 美里, 北川 勇一

【目的】2016年4月に伊勢志摩サミットにおいて「AMR対策アクションプラン」が策定され、2020年までに黄色ブドウ球菌のメチシリン耐性率が20%以下と目標値が明示された。当院ではMRSAをCica Geneus Staph POT KIT（関東化学）を用いて2013年5月より5年間解析を行ってきた。このPOT番号の経年推移とMRSA検出率について調査したので報告する。

【方法】当院で入院、外来問わずに2013年5月～2018年6月までに提出された培養検査（スクリーニング検査を除く）から検出された新規MRSAをPOT法にて解析した828株とMRSAの検出率を算出し比較した。

【結果】2013～2017年までの病棟から検出された黄色ブドウ球菌中に占めるMRSAの比率は、78.0%、75.0%、66.9%、67.2%、59.7%と減少していた。同様に外来から検出された比率は、22.0%、25.0%、33.1%、32.8%、40.3%と増加していた。これをPOT法で解析しPOT1の値が93（院内感染型MRSA:NewYork/Japan clone）、POT1の値が106（市中型MRSA）の検出率と比較した。POT1の値が93では2013年から79.7%、

62.2%、60.5%、49.1%、45.4%と減少しているのに対し、POT1の値が106については、20.3%、37.8%、39.5%、50.9%、54.6%と増加していた。

【考察】感染対策が必要になる微生物はMRSA以外にも多くあるが、MRSAでは接触感染対策が必要不可欠であり院内感染対策を行う上では非常に難しく制圧は難しい。今回、検出率とPOT番号を比較することで院内型だけでなく市中型が増加してきており、地域での伝播が推測された。直近ではPOT1の値が74のタイプが外来で現れ新たな伝播が考えられることから、今後も新規発生患者へのPOT法を実施することでアウトブレイクの察知ができICTへ有用な情報が提供できる検査であると考ええる。

【連絡先】近江八幡市立総合医療センター 臨床検査科  
TEL0748-33-3151 内線6743 近澤秀己